



題字 藤本利夫著

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2016年4月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメールshiga.minken@gmail.com
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

安心と自由の生きる学校・地域を子どもたちに

福井 雅英 (滋賀県立大学)

昨秋、標記のテーマを掲げて地域民主教育全国交流研究会近江八幡集会を開催しました。会場はヴォーリス学園をお借りしました。集会は北海道から沖縄まで、文字通り全国からの参加があり、内容的にも充実し成功したと自賛しています。

「安心と自由の生きる学校・地域を子どもたちに」というテーマは、1999年に滋賀教科研の編集で出版した『安心と自由が生きる学校』（かもがわ出版）を引き継ぐものでした。学校・地域における「安心と自由」を改めて深めたいと考えたからです。現地企画の中では、LIVE! (仮) センセの放課後」で、若い教師の元気の泉を共に汲んでもらいたいと思いましたが、参加者もフロアから発言し語り合うという、文字通りライブが実現しました。全国規模の研究集会の開催を引き受けると、準備や運営などは確かに大変です。しかし、それをこえて得るものが大きく力がつくと考えて引き受けるのです。今回も、集会の準備を進める実行委員会のために、県内の実践報告を受けて論議する研究会を重ねました。多くは若い教師の苦悩と実践の模索を

もとにした研究交流でした。切実に考えさせられる報告ばかりで、そこには変化し複雑化する子どもの問題をどう理解すればよいか、その子を含む家族のくらしの厳しさを踏まえながら父母とどう手を繋ぐか、という課題があり、簡単には見通しが持てないという実態がありました。子どもに寄り添って実践を追求しようとする教師にとって、もう一つの重い苦悩は、「創造的な実践を展開しようとする自由」への様々な形の圧迫の強まりです。いま学校に支配的な雰囲気は、「失敗を許さない」とか「厳しい指導」を求めるといふ風潮です。規格化された「〇〇スタンダード」の押しつもありです。教師が「キチンとチャント」「ビシッとバシッと」などの感覚に自らも縛られると、他の同僚や子どもをもまた縛っていくという問題もあります。

開会集会は、「湖国」に相応しい内容になったと思います。日本の公害研究の第一人者である宮本憲一先生と、琵琶湖に生きる漁師でもある杉本敏隆県会議員のお話を繋いで聞けたのは貴重なことでした。琵琶湖と地域に根ざして奮闘してきた杉本さんの生きざまも

参加者の心を打ったと思います。震災と原発事故以後の日本を生きることが湖国という舞台で考える、意義深い機会になったと思うのです。

「安心と自由」は、子どもと教育分野だけの課題ではありません。いまや、日本社会のあり方・行く末を考えるキーワードでもあります。安民法制と集団的自衛権容認の閣議決定、さらには憲法改悪への危険な動き、それに対抗する若者・ママなど各層の市民の立ち上がり全国でうねりとなっている、運動が切り結ぶその接点で考えたいテーマです。また、わたしは「安民法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民の会しが」の運動に参加していますが、そうした運動を創っていく際にも、参加者自身が心すべき課題としてこのテーマを考えてもいるのです。

(ふくい まさひで)

《 今月の紙面 》

- ・安心と自由の生きる学校・地域を子どもたちに／福井 雅英 …P1
- ・響の”め”が出た物語／佐藤 光音 …P2, 3
- ・小学校五年生理科「植物の発芽と成長」から、学習のあり方を考える／青木 保彦 …P4, 5
- ・やっぱり、学校が好きだった／今宿 博樹 …P6
- ・英語教育を考える／福田 香里…P7
- ・滋賀の教育動向 1・2月 …P8